

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道27号 <small>かなやま</small> 金山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：福井県敦賀市坂下 至：福井県三方郡美浜町佐田	延長	7.5km		
事業概要	<p>一般国道27号は、福井県敦賀市から京都府船井郡京丹波町に至る延長約140kmの主要幹線道路である。金山バイパスは、美浜東バイパスや敦賀バイパス、近畿自動車道敦賀線及び北陸自動車道と一体となって、福井県の広域道路ネットワークを形成する路線であり、一般国道27号交通混雑の緩和や沿線地域の活性化等を目的として計画された道路である。</p>				
S47年度事業化	S49年度都市計画決定	S50年度用地着手	S53年度工事着手		
全体事業費	390億円	事業進捗率	約89%	供用済延長	7.5km
計画交通量	22,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年	
	(事業全体) 1.6	(残事業)/(事業全体) 40/838億円	(残事業)/(事業全体) 85/1,381億円	平成22年	
	(残事業) 2.1	事業費：18/785億円 維持管理費：22/54億円	走行時間短縮便益：75/1,206億円 走行経費減少便益：5.8/140億円 交通事故減少便益：4.6/34億円		
感度分析の結果	<p>残事業について感度分析を実施</p> <p>交通量変動：B/C=2.4(交通量+10%) B/C=1.9(交通量-10%)</p> <p>事業費変動：B/C=2.0(事業費+10%) B/C=2.2(事業費-10%)</p> <p>事業期間変動：B/C=2.1(事業期間+20%) B/C=2.1(事業期間-20%)</p>				
事業の効果等	<p>①交通混雑の緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> 金山バイパスの暫定供用区間の交通量は増加しているが、整備により交通の円滑化が期待できる。 <p>②地域の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 敦賀市・若狭町周辺の観光客入込客数、観光消費額は県全体の約3割で増加傾向であり、更なる観光振興が期待される地域。 沿線へのアクセス性向上により、観光客の増加が見込まれる。 (気比神宮：観光客入込数：631千人/年) <p>③高速道路へのアクセス強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 金山バイパスは美浜東バイパスとともに、平成26年度に供用が予定されている近畿自動車道敦賀線の美浜IC(仮称)へのアクセス道路となり、地域の中心都市である敦賀市、物流拠点である敦賀港へのアクセス強化が期待され、沿線地域では利便性が向上するなど、企業立地の促進が期待される。 <p>④敦賀港へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 美浜町～敦賀港の所要時間が短縮。(31分→23分) <p>⑤日常生活圏中心都市へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 美浜町～敦賀市の所要時間が短縮。(26分→18分) 				
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見等：</p> <ul style="list-style-type: none"> 敦賀バイパス道路建設促進期成同盟会(S48.4設立、敦賀市長、美浜町長、若狭町長)より早期整備の要望を受けている。 <p>福井県知事の意見：</p> <ul style="list-style-type: none"> 金山バイパスの対応方針(原案)「事業継続」については異存なし。 金山バイパスは、美浜東バイパスとともに、平成26年度(舞鶴若狭自動車道の全線供用予定)までのできる限り早い時期の供用を目指すとともに、一層のコスト縮減に努めること。また、旗護山トンネルと佐田トンネルの整備に当たっては、災害や緊急の際の通信通話環境を確保するため必要な措置を講じること。 				
事業評価監視委員会の意見	<p>審議の結果、「国道27号金山バイパス」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断される。</p>				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>金山バイパス沿線地域は、人口推移がほぼ横ばい傾向にあるものの、人口あたりの自動車保有台数は増</p>				

加傾向にある。

一般国道27号の交通量は、依然として交通容量を超過している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

現在までに7.5km全線を供用(うち3.1kmは暫定2車線)済みであり、用地取得は全て完了。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、早期の供用を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業実施にあたり、歩道幅員の見直しや新技術・新工法の活用等により、コスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

再評価結果(平成23年度事業継続箇所)

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道27号 <small>かなやま</small> 金山バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：福井県敦賀市坂下 至：福井県三方郡美浜町佐田	延長	7.5km		

事業概要図

【位置図】



【概要図】

